

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

— 平成 13 年 9 月 調査結果 —

(平成 13 年 10 月 2 日)

○調査期間：平成 13 年 9 月 18 日～25 日

○調査対象：全国の 396 商工会議所が 2622 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 387 製造業 635 卸売業 237
小売業 753 サービス業 610

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (DI 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

※ DI 値について

DI 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL:03-3283-7844/7836
E-Mail:sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成13年9月調査結果のポイント】

業況D1値のマイナス幅4ポイント拡大。深刻化する先行き不安

- 9月の景況をみると、全産業合計の業況D1（前年同月比ベース、以下同じ）は、卸売業では前月まで続いたマイナス幅拡大の反動から若干縮小となったものの、その他の全業種で、マイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、前月水準（▲54.2）よりマイナス幅が4.0ポイント拡大して▲58.2となった。昨年10月以降、業況の悪化傾向が続いている。また、全産業合計の業況D1▲58.2は、平成11年1月以来の低水準。米国での同時多発テロやマイカルの民事再生法申請等、今後の懸念材料が増大したために、先行きへの不安感がより深刻化してきており、地域経済や足元の景況感は、さらに厳しい状況にある。

建設業では、「競合が激しく、採算は悪化。受注が少なく人員整理が進んでいる」（建築工事）、「先の見通しがなかなか見えない。仕事量は減少の一途」（一般工事）など、受注量や採算面が一向に改善されない状況を訴える声が多く寄せられている。また、補正予算による今後の公共工事の発注動向については、厳しい見通しであるとの指摘が多く寄せられている。

製造業では、引き続き、「発注元の安値輸入品へのシフトが続いており、生産は減少」（織物外衣製造）、「親会社の海外調達強化等で、仕事量がさらに減少」（自動車・同附属品製造）、「受注が少なく、採算度外視の仕事獲得競争が中堅・大手まで広がってきた」（輸送用機械器具製造）、「仕事があっても、取引先の値引要求が強く、採算割れになる」（金属加工機械製造）、「受注は小ロット、短納期、低価格と三重苦の状況」（金属加工機械製造）、「資金繰り等で困窮する業者も出始めた」（印刷業）といった厳しい声が多く寄せられている。また、「アメリカ経済の冷え込みにより需要が激減」（電子部品製造）、「米国テロの問題で、日米貿易にどの程度影響が出るのか気掛かり」（輸送用機械器具製造）、「マイカル経営破綻により、売上高が1割減となった納入業者もある」（パン・菓子製造）との指摘もあった。

卸売業では、前月までの反動から、D1値のマイナス幅は若干縮小したが、引き続き、「非常に悪い状況であり、廃業する事業所も多い」（衣服・日用品卸）、「需要低迷、低価格志向が一層顕著」（食料・飲料卸）といった声が寄せられているほか、「今後、マイカルの影響が懸念される」（衣服・日用品卸）との指摘もあった。

小売業では、「夏物に比べ単価の高い秋物衣料が売れて売上が伸びた」（商店街）といった声もあるが、引き続き、販売価格や客単価の低下、近隣大型店の影響による売上減などの声が多く、また、大企業の相次ぐリストラ策発表や米国テロ事件等の影響による、消費の更なる悪化を懸念する声も寄せられた。

サービス業では、「全体的不況の中、特に観光消費不況が激しく、売上減少に歯止めがかからない」（旅館）、「台風・米国テロによるキャンセルを埋めることができず、厳しい」（旅館）、「台風の影響もあり、客足減少」（一般飲食店）、「資金繰り面では、本当に今、資金が必要な人が融資を受けられず、廃業に追い込まれている」（一般飲食店）、「ビル火災や米国テロ事件など重大事件が相次ぎ、市民に自粛ムードが広がってしまった」（バー、キャバレー等）など、厳しい業況を訴える声が多く寄せられている。

売上面では、卸売業を除く全業種でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、全産業合計の売上D1はマイナス幅が3.8ポイント拡大して▲50.8となった。採算面では、サービス業、建設業および製造業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、全産業合計の採算D1はマイナス幅が3.1ポイント拡大して▲52.6となった。

- 向こう3ヵ月（10月～12月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D1（今月比ベース）が▲50.1と、昨年同時期の先行き見通し（▲25.2）に比べて極めて厳しい見方となっており、先行きへの不安が深刻化している。

- 景気に関する声、当面する問題としては、米国向け輸出の動向、デフレの進展、個人消費についての関心が高い。

【業況についての判断】

○ 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース）は、卸売業では前月まで続いたマイナス幅拡大の反動から若干縮小となったものの、その他の全業種で、マイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、前月水準（▲54.2）よりマイナス幅が4.0ポイント拡大して▲58.2となった。昨年10月以降、業況の悪化傾向が続いている。米国での同時多発テロやマイカルの民事再生法申請等、今後の懸念材料が増大したために、先行きへの不安感がより深刻化してきており、地域経済や足元の景況感は、さらに厳しい状況にある。

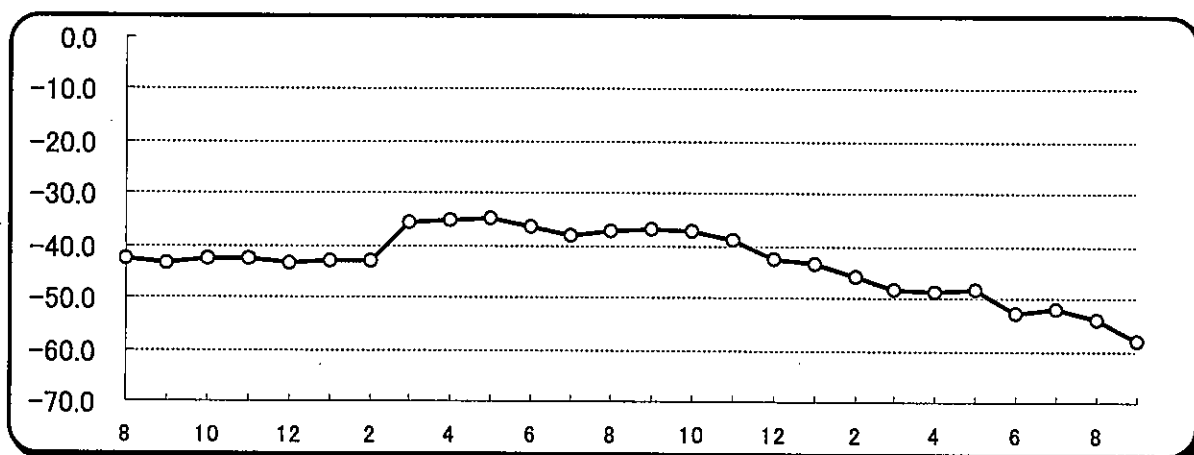
○ 向こう3ヵ月（10月～12月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲50.1と、昨年同時期の先行き見通し（▲25.2）に比べて極めて厳しい見方となっており、先行きへの不安が深刻化している。

業況DI（前年同月比）の推移

	13年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	▲48.6	▲48.3	▲53.0	▲52.0	▲54.2	▲58.2	▲50.1 (▲25.2)
建設	▲57.7	▲59.3	▲62.2	▲60.6	▲60.6	▲64.8	▲59.3 (▲34.6)
製造	▲46.7	▲46.8	▲55.9	▲59.4	▲57.8	▲61.5	▲51.2 (▲17.4)
卸売	▲54.8	▲51.3	▲53.9	▲57.1	▲63.2	▲62.6	▲47.6 (▲24.8)
小売	▲50.7	▲47.6	▲49.9	▲44.2	▲51.1	▲53.0	▲46.8 (▲31.5)
サービス	▲38.7	▲41.9	▲46.3	▲45.2	▲46.3	▲54.5	▲47.5 (▲19.6)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3ヵ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年9月の先行き見通しDI<以下同じ>

≪業況DI（全産業・前年同月比）の推移≫



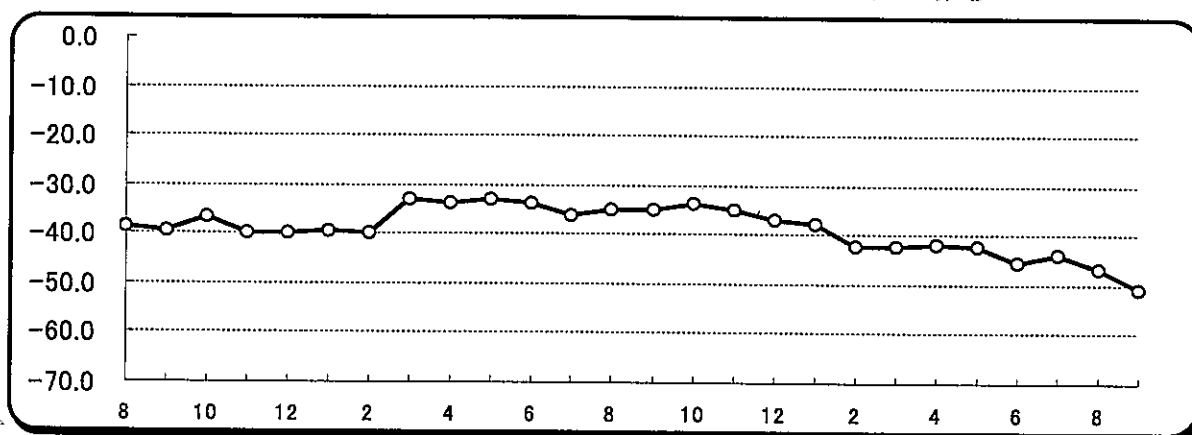
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、卸売業を除く全業種でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、全産業合計の売上DIはマイナス幅が3.8ポイント拡大して▲50.8となった。
- 向こう3ヵ月（10月～12月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI（今月比ベース）が▲41.9と、昨年同時期の先行き見通し（▲19.1）に比べて非常に厳しい見方となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	13年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	▲41.9	▲42.5	▲45.6	▲44.1	▲47.0	▲50.8	▲41.9 (▲19.1)
建設	▲51.6	▲53.1	▲56.1	▲54.6	▲53.8	▲60.1	▲54.2 (▲29.8)
製造	▲39.2	▲38.9	▲46.7	▲49.7	▲50.0	▲50.9	▲44.6 (▲6.8)
卸売	▲44.5	▲46.2	▲47.9	▲56.5	▲56.1	▲55.1	▲37.4 (▲19.3)
小売	▲45.6	▲44.5	▲42.6	▲34.5	▲45.6	▲45.9	▲37.8 (▲26.9)
サービス	▲31.6	▲35.3	▲39.4	▲37.4	▲37.3	▲48.4	▲37.0 (▲15.6)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



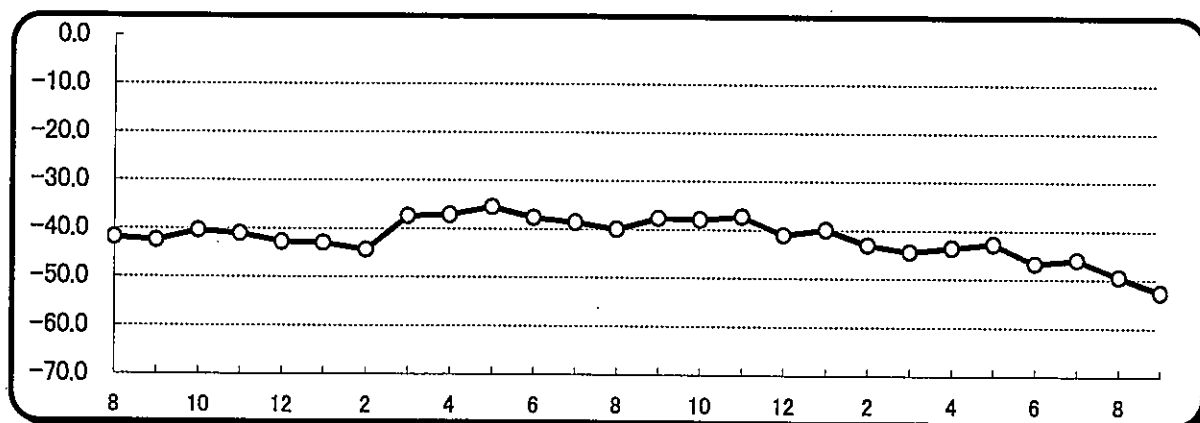
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、サービス業、建設業および製造業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、全産業合計の採算D Iはマイナス幅が3.1ポイント拡大して▲52.6となった。
- 向こう3ヵ月(10月~12月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が▲43.2と、昨年同時期の先行き見通し(▲25.8)に比べて非常に厳しい見方となっている。

採算D I (前年同月比) の推移

	13年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	▲43.6	▲42.8	▲46.8	▲46.0	▲49.5	▲52.6	▲43.2 (▲25.8)
建設	▲58.4	▲58.5	▲61.1	▲58.9	▲59.9	▲63.2	▲59.7 (▲40.8)
製造	▲43.7	▲43.8	▲50.5	▲55.0	▲56.1	▲59.4	▲46.0 (▲17.7)
卸売	▲46.5	▲38.5	▲49.1	▲52.2	▲56.1	▲52.4	▲36.7 (▲28.6)
小売	▲42.9	▲41.1	▲39.1	▲34.1	▲43.7	▲43.0	▲35.9 (▲28.0)
サービス	▲32.4	▲34.5	▲41.2	▲39.5	▲39.8	▲49.6	▲40.1 (▲20.8)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りDI (前年同月比) の推移

	13年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	▲ 29.0	▲ 30.1	▲ 32.4	▲ 32.6	▲ 32.5	▲ 37.3	▲ 35.2 (▲ 18.4)
建設	▲ 37.0	▲ 39.2	▲ 43.2	▲ 40.9	▲ 44.1	▲ 42.8	▲ 46.5 (▲ 28.0)
製造	▲ 28.8	▲ 29.0	▲ 36.6	▲ 37.5	▲ 35.4	▲ 41.9	▲ 38.1 (▲ 13.4)
卸売	▲ 24.4	▲ 29.5	▲ 27.8	▲ 28.5	▲ 32.5	▲ 37.5	▲ 29.4 (▲ 20.1)
小売	▲ 29.5	▲ 26.0	▲ 26.8	▲ 27.3	▲ 26.3	▲ 30.2	▲ 30.5 (▲ 19.2)
サービス	▲ 24.0	▲ 29.2	▲ 26.6	▲ 27.8	▲ 27.0	▲ 35.1	▲ 31.7 (▲ 16.2)

$$DI = (\text{好転の回答割合}) - (\text{悪化の回答割合})$$

【前年同月比DI】建設業を除く全業種で悪化超感が強まる。

【先行き見通しDI】全業種で、昨年同時期に比べ悪化超感が強まる見通し。

仕入単価DI (前年同月比) の推移

	13年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	4.6	3.4	1.5	2.0	3.7	4.2	▲ 0.9 (▲ 2.8)
建設	2.5	6.1	6.5	3.3	7.0	2.2	▲ 1.8 (▲ 2.2)
製造	▲ 3.5	▲ 3.3	▲ 4.3	▲ 4.0	▲ 2.7	▲ 0.5	▲ 4.9 (▲ 8.0)
卸売	9.7	5.8	▲ 2.4	6.8	8.4	11.0	5.5 (5.0)
小売	13.6	9.2	7.7	9.7	12.9	10.0	4.5 (2.5)
サービス	1.3	1.0	▲ 2.1	▲ 3.9	▲ 4.8	0.8	▲ 5.1 (▲ 7.4)

$$DI = (\text{下落の回答割合}) - (\text{上昇の回答割合})$$

【前年同月比DI】製造業、卸売業およびサービス業で下落超感が強まる。

【先行き見通しDI】全業種で、昨年同時期に比べ下落超感が強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	13年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	▲ 11.5	▲ 12.8	▲ 15.7	▲ 15.6	▲ 14.4	▲ 15.7	▲ 16.1 (▲ 9.1)
建設	▲ 28.0	▲ 28.9	▲ 31.1	▲ 33.6	▲ 30.8	▲ 29.0	▲ 27.7 (▲ 17.4)
製造	▲ 11.9	▲ 14.9	▲ 21.8	▲ 22.8	▲ 21.9	▲ 22.9	▲ 24.5 (▲ 9.5)
卸売	▲ 14.8	▲ 12.2	▲ 19.4	▲ 19.3	▲ 18.1	▲ 16.3	▲ 17.0 (▲ 7.6)
小売	▲ 5.9	▲ 7.5	▲ 8.3	▲ 5.2	▲ 4.0	▲ 5.8	▲ 7.4 (▲ 9.1)
サービス	▲ 5.1	▲ 6.1	▲ 5.4	▲ 6.3	▲ 6.3	▲ 10.2	▲ 8.9 (▲ 3.5)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】製造業、小売業およびサービス業で過剰超感が強まる。

【先行き見通しD I】小売業を除く全業種で、昨年同時期に比べて過剰超感が強まる見通し。

【平成13年9月の景気キーワード】

○ 先行き不透明感

引き続き、先行きの業況に関する不透明感や先行きへの不安に関する指摘が多く寄せられている。特に今月は、米国での同時多発テロやマイカルの民事再生法申請等、今後の懸念材料が増大したために、先行きへの不安感がより深刻化している。建設業からは、「競合が激しく、採算は悪化。受注が少なく人員整理が進んでいる」（福島・建築工事）、「先の見通しがなかなか見えない。仕事量は減少の一途」（小千谷・一般工事）などの声が寄せられている。製造業からは、「親会社の海外調達強化等で、仕事量がさらに減少」（豊橋・自動車・同附属品製造）、「資金繰り等で困窮する業者も出始めた」（町田・印刷業）、「アメリカ経済の冷え込みにより需要が激減」（弘前・電子部品製造）、「米国テロの問題で、日米貿易にどの程度影響が出るのか気掛かり」（各務原・輸送用機械器具製造）、「マイカル経営破綻により、売上高が1割減となった納入業者もある」（池田・パン・菓子製造）といった声がある。また、卸売業・小売業・サービス業からは、「今後、マイカルの影響が懸念される」（姫路・衣服・日用品卸）、「大企業のリストラ計画や米国のテロ事件により、消費の落ち込みがどこまでいくか心配」（銚子・商店街ほか）、「狂牛病の影響が現れ、牛肉の売上が減少し始めている」（川崎・百貨店ほか）、「全体的不況の中、特に観光消費不況が激しく、売上減少に歯止めがかからない」（宮古・旅館）、「ビル火災や米国テロ事件など重大事件が相次ぎ、市民に自粛ムードが広がってしまった」（静岡・バー、キャバレー等）などの声が寄せられている。

○ 倒産・廃業

今月は、マイカルの民事再生法申請による直接・間接的な影響等についてのコメントが寄せられたが、それ以外にも、長引く低迷や先行き見通しが厳しい影響から、倒産や廃業についてのコメントが目立ってきている。「公共事業が少なくなって倒産が目立つ」（習志野・一般工事）、「今月、自主廃業2件。今後も多発の様相」（五泉・ニット製外衣・シャツ製造）、「非常に悪い状況であり、廃業する事業所も多い」（高岡・衣服・日用品卸）、「地方問屋の倒産・廃業が多くなってきた」（新発田・商店街）、「組合加入旅館の廃業が続いている」（酒田・旅館）などの指摘が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
13年 7月	先行き不透明感	倒産・廃業	猛暑の影響
13年 8月	先行き不透明感	倒産・廃業	
13年 9月	先行き不透明感	倒産・廃業	

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上・採算D1とも、前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。「競合が激しく、採算は悪化。受注が少なく人員整理が進んでいる」(建築工事)、「先の見通しがなかなか見えない。仕事量は減少の一途」(一般工事)など、受注量や採算面が一向に改善されない状況を訴える声が多く寄せられている。また、補正予算による今後の公共工事の発注動向については、厳しい見通しであるとの指摘が多く寄せられている。
製 造	業況D1は9ヵ月連続してマイナス幅が拡大した後、前月は縮小となったが、今月は再び拡大した。また、売上D1は4ヵ月連続、採算D1は11ヵ月連続のマイナス幅拡大となっている。引き続き、「発注元の安値輸入品へのシフトが続いており、生産は減少」(織物外衣製造)、「親会社の海外調達強化等で、仕事量がさらに減少」(自動車・同附属品製造)、「受注が少なく、採算度外視の仕事獲得競争が中堅・大手まで広がってきた」(輸送用機械器具製造)、「仕事があっても、取引先の値引要求が強く、採算割れになる」(金属加工機械製造)、「受注は小ロット、短納期、低価格と三重苦の状況」(金属加工機械製造)、「資金繰り等で困窮する業者も出始めた」(印刷業)といった厳しい声が多く寄せられている。また、「アメリカ経済の冷え込みにより需要が激減」(電子部品製造)、「米国テロの問題で、日米貿易にどの程度影響が出るのか気掛かり」(輸送用機械器具製造)、「マイカル経営破綻により、売上高が1割減となった納入業者もある」(パン・菓子製造)との指摘もあった。
卸 売	業況・売上・採算D1とも、前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。しかしながら、引き続き、「非常に悪い状況であり、廃業する事業所も多い」(衣服・日用品卸)、「需要低迷、低価格志向が一層顕著」(食料・飲料卸)といった声が寄せられているほか、「今後、マイカルの影響が懸念される」(衣服・日用品卸)との指摘もあった。
小 売	業況・売上D1とも2ヵ月連続で前月水準に比べてマイナス幅が拡大した一方、採算D1は2ヵ月ぶりにマイナス幅が縮小している。「夏物に比べ単価の高い秋物衣料が売れて売上が伸びた」(商店街)といった声もあるが、引き続き、販売価格や客単価の低下、近隣大型店の影響による売上減などの声が多く、また、大企業の相次ぐリストラ策発表や米国テロ事件等の影響による、消費の更なる悪化を懸念する声も寄せられた。
サービス	業況・売上・採算D1とも、前月水準に比べて、それぞれ10ポイント前後の大幅なマイナス幅拡大となっている。「全体的不況の中、特に観光消費不況が激しく、売上減少に歯止めがかからない」(旅館)、「台風・米国テロによるキャンセルを埋めることができず、厳しい」(旅館)、「台風の影響もあり、客足減少」(一般飲食店)、「資金繰り面では、本当に今、資金が必要な人が融資を受けられず、廃業に追い込まれている」(一般飲食店)、「ビル火災や米国テロ事件など重大事件が相次ぎ、市民に自粛ムードが広がってしまった」(バー、キャバレー等)など、厳しい業況を訴える声が多く寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

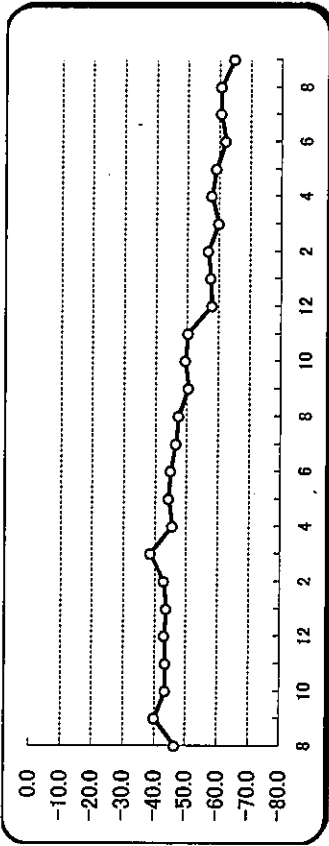
- ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）を見ると、全産業合計では全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。ブロック別に見ると、近畿を除く各ブロックで、前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。
- ブロック別の向こう3ヵ月（10月～12月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。また、全ブロックにおいて、昨年同時期の先行き見通しに比べて非常に厳しい見方となっている。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

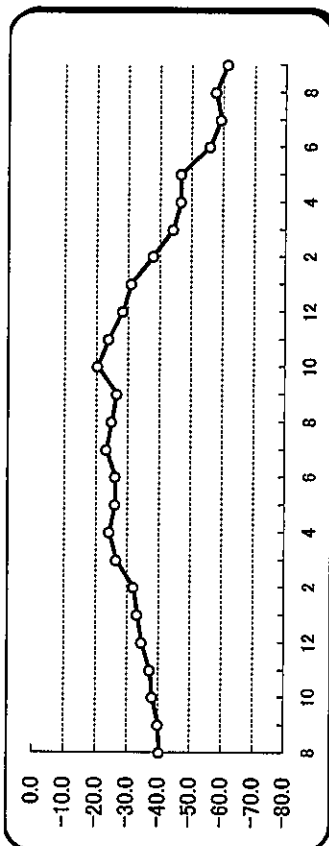
	13年						先行き見通し 10～12月
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
全 国	▲ 48.6	▲ 48.3	▲ 53.0	▲ 52.0	▲ 54.2	▲ 58.2	▲ 50.1 (▲ 25.2)
北 海 道	▲ 44.5	▲ 43.5	▲ 39.8	▲ 44.4	▲ 40.3	▲ 44.3	▲ 45.6 (▲ 27.4)
東 北	▲ 50.9	▲ 50.0	▲ 54.0	▲ 53.7	▲ 58.0	▲ 60.3	▲ 57.5 (▲ 27.2)
北陸信越	▲ 48.8	▲ 43.5	▲ 52.5	▲ 58.0	▲ 52.2	▲ 57.1	▲ 45.4 (▲ 29.0)
関 東	▲ 41.1	▲ 39.5	▲ 50.9	▲ 48.4	▲ 50.6	▲ 55.8	▲ 44.4 (▲ 19.4)
東 海	▲ 53.3	▲ 49.1	▲ 57.6	▲ 46.3	▲ 57.4	▲ 57.5	▲ 54.4 (▲ 24.4)
近 畿	▲ 56.2	▲ 60.3	▲ 58.4	▲ 56.8	▲ 64.1	▲ 61.8	▲ 57.7 (▲ 31.3)
中 国	▲ 49.7	▲ 54.2	▲ 58.8	▲ 54.6	▲ 57.5	▲ 63.8	▲ 51.7 (▲ 31.7)
四 国	▲ 60.9	▲ 57.4	▲ 54.9	▲ 63.7	▲ 57.9	▲ 69.2	▲ 48.1 (▲ 25.5)
九 州	▲ 44.6	▲ 47.2	▲ 48.7	▲ 48.2	▲ 49.7	▲ 56.1	▲ 49.4 (▲ 19.6)

業況D I (前年同月比) の推移 (全国)

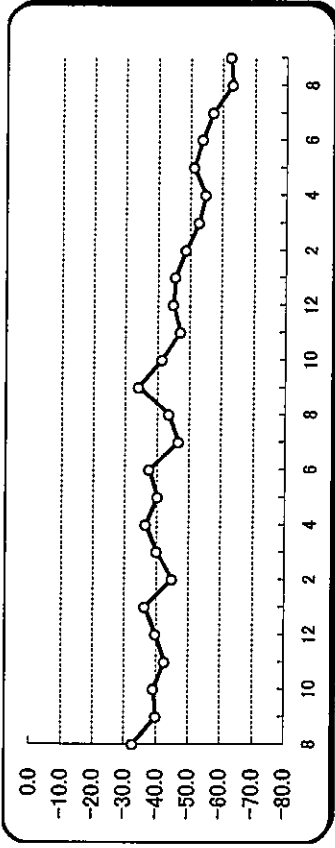
建設業



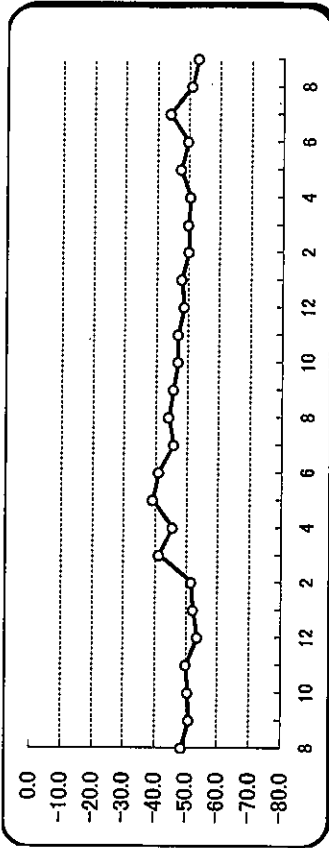
製造業



卸売業



小売業



サービス業

